

1. 科目名 (単位数)	教育方法学特論 (2 単位)	池袋・名古屋	3. 科目番号	EDMP5235
2. 授業担当教員	【池袋】片岡 浩 【名古屋】下出 美智子			
4. 授業形態	講義と演習 (ディスカッション。グループ学習等)		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	履修条件は特になし。			
7. 講義概要	我が国における現代の教育の動向や課題を概観すると共に、教育理論と実践が有効に関連しながら実践に生きる、教育方法のあり方を追求する。具体的には、文献を通して芸術を中心とした表現教育の教育学的位置づけと意義について、授業分析や観察や体験を通して子どもの表現の様相、授業の構造、授業の方法、授業を成立させる諸要因等について説明していく。			
8. 学習目標	1. 理論研究を通して、芸術を中心とした表現の教育学的位置づけと意義について理解する。 2. 授業分析等を通して、子供の表現の様相や授業構造や授業方法について分析・考察する。 3. 五感を使った表現体験を通して、人が表現することの意味を探る。 以上の学習を通して、実践に生きる教育方法について検討する。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	授業の事前、事後に配布される論文や書籍を購読し、内容の説明ができるようにしておく。 その他、授業ごとに指示する。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 なし。必要な資料は配布する。 【参考文献】 ・下出美智子『知的障害のある青年達の音楽行為』風間書房,2011 ・小島律子・澤田篤子編『音楽による表現の教育—継承から創造へ—』晃洋書房,1998 ・下出美智子『言葉・動き・音楽による表現の実践的研究』風間書房,2016 ・日本学校音楽教育実践学会編『生成を原理とする 21 世紀音楽科カリキュラム—幼稚園から高等学校まで—』東京書籍,2006 ・佐藤学・今井康雄編『子どもたちの想像力を育む—アート教育の思想と実践』東京大学出版会,2003 ・河合隼雄『臨床教育学入門』岩波書店,1995 ・佐伯胖、藤田英典、佐藤学編『シリーズ学びと文化⑤ 表現者として育つ』東京大学出版会,1995			
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 ・文献購読、及び授業分析等を通して、感性の教育の重要性、表現の教育的意義等について論述することができる。 ・授業分析等を通して、子供の表現や発達の様相や授業の構造や授業方法について、感じ考え、想像し、独自の提案を行うことができる。 ・創意工夫を凝らした表現体験を通して、表現することの意味を探ることができる。 ○評定の方法 日常の授業態度 10%、取り組み (試行錯誤や創意工夫等、自ら感じ考え思考し行動する姿勢) 20% 出席状況 20%、レポート&課題 50%として—総合的に評価する。			
12. 受講生へのメッセージ	教師、研究者としての資質・能力の向上に努めてほしい。 研究論文作成に向け進んで文献・資料収集、調査を行う等、試行錯誤しながら学びを深めて下さい。			
13. オフィスアワー	事前にメール等でアポイントをとって下さい。			
14. 学習の展開及び内容	【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】			
1. テーマ	オリエンテーション (授業の進め方、評価等について)。教育学における理論と実践の融合			
	【学習の目標】教育学における理論と実践の融合について理解を深める。 【学習の内容】理論と実践の融合とは何か。 【キーワード】教育学、実践学、理論と実践の融合 【学習の課題】理論と実践の融合について理解できる。 【参考文献】『子どもたちの想像力を育む—アート教育の思想と実践』、『生成を原理とする 21 世紀音楽科カリキュラム』 【学習する上での留意点】参考文献を読み学習内容についての理解を深めておくこと。			
2~4. テーマ	教育学における芸術表現の位置付けと意義			
	【学習の目標】教育学における芸術表現の位置付けと教育的意義について理解を深める。 【学習の内容】DVD「関西の音風景」の視聴。序章「表現の原理と教育的意義」、第1章「想像力と創造性の教育—アートと子どもの結合の諸相—」、第2章「子どもの美的経験の意味」の購読。 【キーワード】表現の教育、芸術、文化、創造 【学習の課題】DVD 及び文献の内容を整理し、レポートとしてまとめ発表できる。 【参考文献】小島律子・澤田篤子編『音楽による表現の教育—継承から創造へ—』 佐藤学・今井康雄編『子どもたちの想像力を育む—アート教育の思想と実践』 【学習する上での留意点】事前に参考文献を熟読しておくこと。			
5. テーマ	教育学における感性の教育の意義			
	【学習の目標】感性の教育の意義について実践的に理解を深める。 【学習の内容】2~4 で学んだことについての整理と実践。 【キーワード】教育学、音楽・美術、芸術、文化、創造 【学習の課題】文献を通して学んだことを体験・実践したり、自分の考えを発表したりできる。 【参考文献】『子どもたちの想像力を育む—アート教育の思想と実践』、『音楽による表現の教育—継承から創造へ—』			

【学習する上での留意点】今までに学んだことを整理し、自分の考えを発表できるように準備しておくこと。	
6～8.テーマ	子どもの音楽・美術による表現〔特別支援を含む〕
<p>【学習の目標】子どもの音楽・美術による表現（特別支援を含む）について、書籍や論文や実践報告を通して理論的・実践的に学ぶ。</p> <p>【学習の内容】子どもの表現の発達、表現の指導内容、教材開発、指導案等の分析・考察。</p> <p>【キーワード】表現の発達、五感の教育、障害児、インクルーシブ教育、アクティブ・ラーニング、授業観察</p> <p>【学習の課題】キーワードについて事前に調べ授業で概要を説明することができる。</p> <p>【参考文献】下出美智子『知的障害のある青年達の音楽行為』、下出美智子『言葉・動き・音楽による表現の実践的研究』その他、資料配布。</p> <p>【学習する上での留意点】音楽や美術教育に関する文献や専門書にできるだけ沢山、目を通しておくこと。</p>	
9～11.テーマ	学校における表現の授業分析
<p>【学習の目標】授業記録や観察を基に、表現の授業分析の仕方を学ぶ。</p> <p>【学習の内容】子供の表現の発達、授業の構造、教師の支援等の視点から授業分析する。</p> <p>【キーワード】表現の変容、エレメンタールな表現、教師の支援</p> <p>【学習の課題】分析視点に沿ってレポート作成を行い、意見発表ができる。</p> <p>【参考文献】『知的障害のある青年達の音楽行為』等</p> <p>【学習する上での留意点】上記参考文献を読み要点を整理しておくこと。</p>	
12～14.テーマ	学校における表現の授業を成立させる諸要因
<p>【学習の目標】表現の授業を成立させる諸要因について探る。</p> <p>【学習の内容】表現の授業における楽しさとは。仲間との協同とコミュニケーションの成立。</p> <p>【キーワード】授業の楽しさ、コミュニケーション、協同</p> <p>【学習の課題】分析視点に沿ってレポート作成を行い意見発表ができる。</p> <p>【参考文献】『言葉・動き・音楽による表現の実践的研究』、第7章「動きづくりに見られるコミュニケーションの成立」、第8章「仲間と共に学ぶ楽しさの質の変容」</p> <p>【学習する上での留意点】授業終了後、要点を整理しておくこと。</p>	
15.テーマ	これまでのまとめ
<p>【学習の目標】これまでの学習を通して理解し発見したことを実践にどのように生かすのか、整理し発表する。</p> <p>【学習の内容】これまでのまとめとレポート発表。</p> <p>【キーワード】教育方法、子どもの表現、授業分析、授業の成立要因</p> <p>【学習の課題】本講義の成果を整理し発表することができる。</p> <p>【参考文献】これまでの資料。</p> <p>【学習する上での留意点】事前にレポートを作成し、指定された時間内に研究成果を報告する。</p>	